

FUKU ふくすた STAT 2023.07

統計調査課通信

物価高の今知りたい、福井の電気事情

福井県の電力供給を主にカバーしている北陸電力は、令和5年6月から家庭向けを含む「規制料金」について平均39.7%の値上げを実施しました。値上げは昭和55年以来43年ぶりです。4月には自社の判断で改定できる「自由料金」も値上げしました。電力需要が増える夏、福井県の電気事情について統計データを基に考察しました。



01 電気の消費量が多い福井県

家計調査（総務省）によると、令和4年の福井市における1世帯当たり年間電気購入量は

7,748kWhで、都道府県庁所在市別のランキングをみると第1位となっています。また、第2位の富山市、第3位の金沢市も合わせ、北陸地方は全国的に電気の消費量が多くなっています。

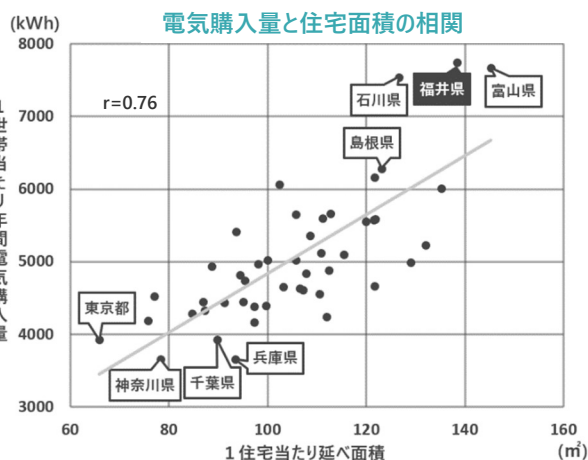
北陸の電気消費量が多い原因としては、家が大きく、部屋数が多いことから、照明、エアコン等の家電が大型化、また数が多くなる等の理由が考えられます。（平成30年住宅・土地統計調査によると、福井県は1住宅当たり延べ面積、また1住宅当たり居住室数ともに全国第2位となっています。（第1位は富山県））。

1世帯当たりの電気の購入量と1住宅当たりの延べ面積の相関を調べると、相関係数は0.76で強い相関がありました。

1世帯当たり年間電気購入量（令和4年）

1位 福井市 7,748 kWh	44位 千葉市 3,926 kWh
2位 富山市 7,674 kWh	45位 東京都区部 3,924 kWh
3位 金沢市 7,541 kWh	46位 神戸市 3,662 kWh
4位 松江市 6,283 kWh	47位 横浜市 3,660 kWh

資料：総務省統計局「家計調査」

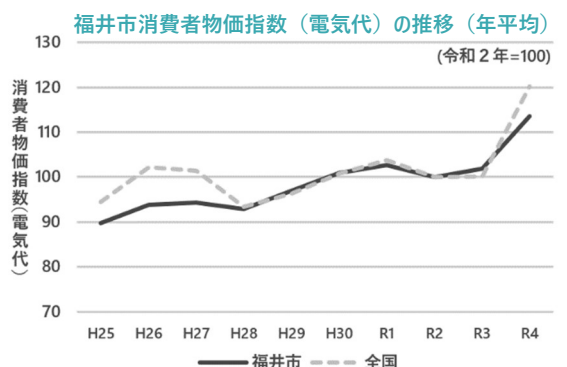


資料：総務省統計局「家計調査」
総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査」

02 電気代の消費者物価指数（年平均）の推移

総務省が作成している福井市の電気代の消費者物価指数の年平均は、平成25年以降上昇傾向にあり、令和4年は急激に上昇しました。

※ 電気代の消費者物価指数は、標準世帯をモデルケースとして、規制料金（従量電灯契約電流50アンペア）と自由料金を加重平均して算出しています。

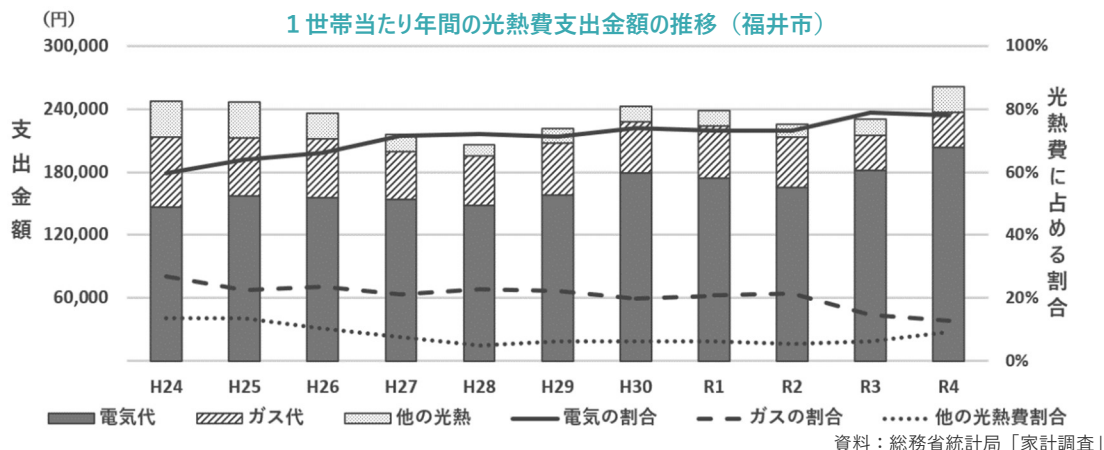


資料：総務省統計局「消費者物価指数」

03 家庭の光熱費に占める電気代の割合

家計調査（総務省）で、平成24年と令和4年の福井市の一般家庭における光熱費の支出状況を比べると、電気代が増加（支出割合60%→78%）

し、ガス代が減少（支出割合27%→13%）しています。これは、オール電化住宅の増加や電気代の高騰が影響しているものと考えられます。



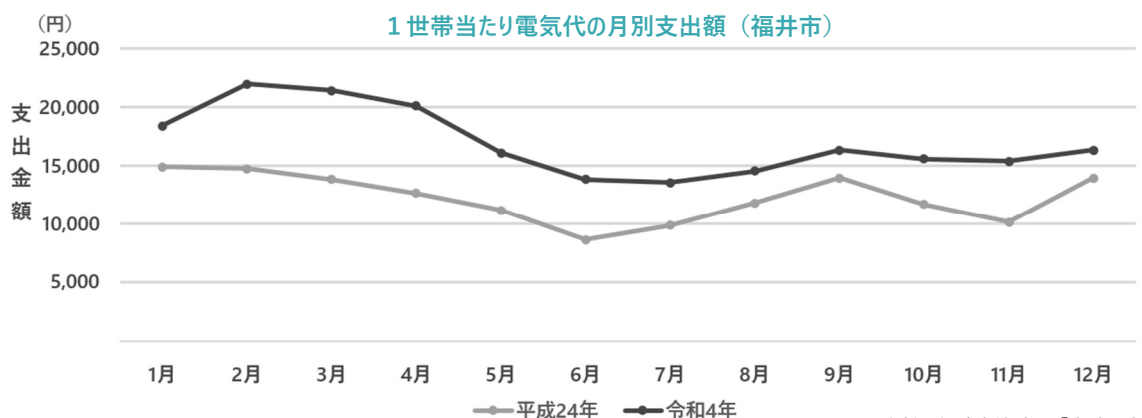
04 家庭の電気代の月別支出額

福井市の一般家庭における電気代の令和4年の月別の支出額をみると、8月～9月の夏期よりも1月～4月の冬期の方が高くなっています。

外気温と室温の差は冬の方が大きくなるため、電力消費量が比較的大きいエアコンを使うことで、電気代が上昇するといえます。

平成24年と比べると、電気代が夏期と冬期に上昇する傾向は変わりませんが、支出額は令和4年の方が年平均で約39.2%増加しています。

（※電気代やガス代は月ごとに請求されるため、実際の使用月は支払月の1か月前です。）



今回、家計調査の結果を中心に、一般家庭における電気代・消費量についてまとめました。今後、電気料金の値上げがどのように反映されるか注目していきます。

各調査に関する詳細は、総務省統計局 e-Stat をご覧ください。

家計調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200561&tstat=000000330001>

消費者物価指数(CPI)

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?tclass=000001138372&cycle=0>

